

本年度は次の5名の委員が3月3日に学校関係者評価委員会を持って評価を行った。

委員 保護者代表（1名） 地域民生委員（1名） 園医（1名）
卒園保護者代表（1名） 評議員代表（1名）

1、教育目標について

「こころもからだものびやかに」をスローガンに次の目標を掲げた。

- ・ 祈りを通して、神様と交われる子ども
- ・ 常に感謝し、周りの人を思いやる子ども
- ・ 喜びや悲しみ、美しさを感じ、またそれを表現できる子ども
- ・ 自然や生き物に親しみ、大切にする子ども
- ・ 心身共にすこやかに、絶えず成長する子ども

（5名） よいと思う。

（0名） 見直しをしたいことがある。

（1名） 付け加えたいことがある。

意見

- 人間を超越した存在がいるということを感じられることはとても良いことだと思う。
- いろいろな体験を通して、自然にいろいろなことに感謝できるようになると思う。
- △ 挨拶がきちんとできる子に育ててほしい。

2、保育内容について 次の内容の実践をした。

- (1) 祈りと礼拝を生活の中心に据え、神様を知り、感謝する心、他の人を思いやる心を育てる。
- (2) 自由遊びを通し、進んで人と交わる力、創意工夫する豊かな心を育み、人間関係の基本を身につける。
- (3) 園外保育に多く出かけたり、さまざまな体験を通し、自然、生き物との触れ合いを持ち、愛する心、感謝の気持ちを育む。
- (4) 芋掘り、パン、クッキー作り、もちつきで楽しんだり、身近なものを使った工作や、絵を描いたりして、作る喜びを味わう。
- (5) 障害のある子ども共に育つという観点から、障害児を受け入れている。

（5名） よいと思う。

（0名） 見直しをしたいことがある。

（0名） 付け加えたいことがある。

意見

- 工作やごっこ遊び等、子どもがやりたいことにできるだけ付き合ってください。
- 雛人形を飾る等、家でできないことをしてくれている。
- 他の幼稚園で断られた障害児をこの幼稚園で受け入れている。
- 大きな事故がなく幸せに思う。これからも事故や諍いのない保育をしてください。

3、地域との連携 次のような地域との連携を行った。

- (1) 地域のお年寄りを招く会やミニコンサート等地域の人との交わりの場をもっている。
- (2) 未就園児とその保護者のために触れ合いの場を設けている。
 - ・ のえんどうの会（未就園の親子の触れ合い活動）
 - ・ 園庭開放
 - ・ 親子で遊ぶ会
- (3) また、地域の要望に応え、預かり保育をこれまでの4時終了から4時30分終了とし、より多くの人ができるようにした。
- (4) 更に、地域、保護者の要望に応え、満3歳児について、年度の途中でも受け入れるようにしている。

(5名) よいと思う。

(0名) 見直しをしたいことがある。

(0名) 付け加えたいことがある。

意見

- 十字地区のお年寄りや、年1回の園訪問をととても楽しみにしている。
- ミニコンサートは、親も子もが楽しみにしている。
- 園児の放課後の自由遊びが3時までできるので、親子にとって、とても良い。
- 預かり保育の時間が長くなったことを皆感謝している。

4、安全対策 次のことを常に心がけている。

- (1) 施設設備の安全点検を行い、必要があれば関係者と連絡を取り合っ、危険のないようにしている。
- (2) 避難訓練を定期的に行い、地震、火災、風水害等に備えている。
- (3) 津波対策は、消防署と連絡を密にし、いざという時の避難方法についても検討している。

(5名) よいと思う。

(0名) 見直しをしたいことがある。

(1名) 付け加えたいことがある。

意見

- 津波について、来ないだろうと思わず、普段の保育でも「津波が来たら絶対に高いところに逃げる」ことを教えてほしい。
- △ 親が引き取りにくる場合の車対策を考えておきたい。

5、教職員の充実

- (1) 教職員の体制
 - 園長（1名） 主任教諭（1名）
 - 教諭（3名） 補助教員（2名）
 - 事務職員（1名） チャプレン（1名）
- (2) 教職員の資質向上のため、研修や、学びの場を設けている。
 - ・ 日本聖公会や、横浜教区の研修会
 - ・ 私立幼稚園協会の研修会
 - ・ その他園内の研修や、自主的な研修

- (5名) よいと思う。
(1名) 見直しをしたいことがある。
(0名) 付け加えたいことがある。

意見

- 先生方が勉強熱心で心強い。
△ チャプレンという呼び方は分かり辛い。牧師でいいのではないか。

1部複数回答あり

○印は継続したい事柄、△は、要検討事項

1 保育の計画、準備について

- ① キリスト教に基づく保育を目指していることについては全員がよく理解しており、また、年度初めや月々の打ち合せの中で園長、チャプレンを中心に十分話し合われて、それらを生かした準備がなされている。
- ② 新卒の教諭は、まだ年間の見通しが立てられず、そのために保育の計画や準備が不十分だと感じている様子も見られたが、2年目は1年目の経験を生かして計画準備をしたいとの思いを強く持っている。

2 幼児の理解

- ① どの教諭も、一人一人が神様から託された子であるとの思いを大切にしながら、個々の子ども達を良く見ている。
- ② クラスにとどまらず、すべての園児を皆の目を見て、絶えず情報交換しながら個々の理解を深めている。
- ③ 保護者とも送り迎え時等を通して情報を共有し、理解を深めるようにしている。
- ④ 幼児の一部分の行動や、保護者の価値観で決めつけることの恐ろしさを感じたとの反省が出された。

3 保育の実践

- ① 日々の祈りを大切に、一人一人が神様を身近に感じられるようになってきている。
- ② 困っている子や弱い子を思いやる心が育ってきている。
- ③ 遊びによって心もからだも成長するように、活動の中心を自由遊びにおいてきたが、もっと積極的に支援した方が良かったのではないかとの反省も出されている。
- ④ 自然や生き物と触れ合う体験から命の大切さを伝える活動が、やや足りなかったとの反省が出された。

4 協力、連携

- ① 保育終了後に、補助教員も加え反省の時を持ち、共通理解をし合っている。
- ② 立場や役割が変わったことで、迷ったり足りなかったりしたことがあった。自分が積極的にやるべき所と、他の人に任せるべき所が、明確に整理できなかったとの反省が出された。次年度に生かしたい。
- ③ 保護者との連絡は、基本的にはできているが、もっと積極的にすることで、更に保護者の理解を得られたのではないかという反省も出された。